

# 日本語学習者と母語話者における日本語複合動詞使用

## 状況の比較

—作文データベースを用いて—

陳曦

### 要 旨

本研究は学習者による作文と母語話者による作文の比較により、日本語学習者の書き言葉における複合動詞の使用状況を調査したものである。

本研究で明らかになったことは、第一に、学習者は全体として複合動詞の使用頻度は母語話者の3分の1程度で少ない傾向にある。国ごとに使用率に差はあるが、国別に使用傾向が見られなかった。また、「さしあげる」など、敬語表現としての複合動詞の誤用が多かった。第二に、後項動詞別上位15項目中10項目が共通しており、両者ともある程度共通する後項動詞を使用する傾向が見られる。しかし、「～始める」、「～始まる」など、複合動詞の自他の使い分けについての誤用が多く見られた。第三に、前項動詞別上位15項目中6項目が共通し、後項動詞ほど学習者と母語話者の共通性は顕著ではなかった。最後に、学習年数別の使用頻度を比べた結果、各グループ間差は小さく、学習者年数による使用頻度の差が見られなかった。

キーワード：複合動詞 作文データベース 学習者コーパス  
第二言語習得

### 1. はじめに

本研究は日本語学習者（学習者）による作文と日本語母語話者（母語話者）による作文の比較を通して、学習者の複合動詞の使用状況を調査したものである。複合動詞とは、「言い出す、思い込む」のように前の動詞（前項動詞）の連用形にもう一つの動詞（後項動詞）が結合したものを指す。学習者による複合動詞の使用が少ないことは姫野（1975）に指摘されている<sup>1)</sup>。にもかかわらず、今まで、学習者の複合動詞の使用状況とその傾向に関する実証的調査は進展していない。

複合動詞教育や習得支援の方向性を探るために、まず学習者の実際の使用状況の調査を始めとする基礎研究が必要になると思われる。陳（2007）は学習者の話し言葉における複合動詞の使用状況を母語話者との比較を通して明らかにした。本研究は、同じ手法により、作文データベースを用いて、学習者の書き言葉における複合動詞の使用状況を調査することを目的とする。

## 2. これまでの研究経緯

陳（2007）では、学習者の話し言葉における複合動詞の使用状況を量的に調査した。OPI<sup>2)</sup>の手法を用いて収集された学習者の発話データ「KYコーパス<sup>3)</sup>」と、母語話者の発話データ「上村コーパス<sup>4)</sup>」を用いて、両コーパスの比較を通じて、学習者の複合動詞の使用状況を分析した。

陳（2007）で明らかになったことは、第一に、学習者は全体として複合動詞の使用頻度も種類も少ない傾向にあり、特に「さしあげる」、「申しあげる」など敬語を表す用法が少ない。第二に、後項、前項動詞別の頻度上位15項目に、学習者と母語話者では各10項目が共通し、両者とも共通する複合動詞を使用する傾向が見られる。ただ学習者は「～あう」、「～だす」は母語話者と比較してより多く使用し、一方「～始める」、「～続ける」などアスペクトを表す複合動詞の使用は比較的少なかった。第三に、学習者の熟達度に伴い、複合動詞の使用頻度も種類も多くなる。第四に、中国語・韓国語母語話者の使用頻度、種類はほぼ同程度であるのに対し、英語母語話者の使用頻度と種類は有意に少なかった。

以上の話し言葉における結果を受けて本研究では、その続きとして学習者による書き言葉における複合動詞の使用状況を明らかにしたい。

## 3. 研究課題

以上のことを踏まえ、本研究は以下の四つを研究課題とする。

- 1) 学習者による複合動詞全体の使用頻度は母語話者と同程度か。
- 2) 母語話者と比べ、どのような後項動詞を使用する傾向があるか。
- 3) 母語話者と比べ、どのような前項動詞を使用する傾向があるか。
- 4) 学習年数による複合動詞の使用状況の違いはあるか。

また、陳（2007）の話し言葉における調査結果の差異など気づいた事項を考察の対象とする。

#### 4. 本研究で使用するコーパスの概要

本研究では、国立国語研究所の「日本語学習者による日本語作文と、その母語訳との対訳データベース<sup>5)</sup>」(作文対訳 DB) の CD-ROM (Ver2.) を利用する。

作文対訳 DB には、中国、インド、カンボジア、韓国、マレーシア、モンゴル、シンガポール、タイ、ヴェトナム、日本の十カ国から約 1,100 名分のデータが収集されており、総文字数<sup>6)</sup>は 693,224 である。作文の課題は「1、あなたの国の行事について」(行事)と「2、たばこについてのあなたの意見」(たばこ)の2種類ある<sup>7)</sup>。

#### 5. データ処理手順

作文対訳 DB に対して、まず作文データを国別に統合した。さらに学習者の作文を学習年数により、「1 年未満」、「1～2 年」、「2～3 年」、「3 年以上」と四つのグループに分け、学習年数別に統合した。また、作文のテーマにより、「たばこ」と「行事」の二つのグループに分けた。最後に母語別、学習年数別、作文テーマ別に、それぞれのグループの総文字数を算出した。

「茶釜」で作文対訳 DB に対し品詞情報を付与した。タグ付けされたデータについてグループ(母語別、学習年数別、テーマ別)ごとに複合動詞を抽出し、元のデータと照らし合わせ、複合動詞の一覧表を作成した。そして、全複合動詞を前項動詞別、後項動詞別にその数と種類を集計した。

#### 6. 調査結果と考察

##### 6.1 複合動詞全体使用の比較

###### 6.1.1 動詞、複合動詞全体使用の比較

一般的な使用状況を比較するために、作文対訳 DB の母語話者と学習者の合計のデータの総文字数、動詞使用数、複合動詞使用数、異なり複合動詞使用数を表 1 にまとめた。ただし、母語話者の総文字数(44,359)は規模として決して多いとは言えないため、直接学習者の合計のデータと比較はできないが、比率を計算して傾向をつかむ上では問題ないと考ええる。

表 1 で分かるように、学習者の総文字数(648,865)に対しての動詞の使用数は 8.7%であり、母語話者の 8.7%と同じ割合で動詞を使用している。次に、動詞の中で、どの程度複合動詞を使用しているかを比較し

表 1 全体における動詞、複合動詞使用の概要

	母語話者作文	学習者作文
W	44,359	648,865
V (W に対する%)	3,846 (8.7)	56,200 (8.7)
CV (V に対する%)	135 (3.5)	686 (1.2)
異なり CV (CV に対する%)	94 (69.6)	294 (42.9)

W：総文字数、V：動詞使用数、CV：複合動詞使用数。以下同。

てみると、母語話者は複合動詞が動詞の 3.5% を占めている。これに対して学習者は 1.2% と母語話者の 3 分の 1 程度であり、少ないことが分かる。さらに、複合動詞を使用する時、どれだけの多種多様な複合動詞を使用できるかを異なり複合動詞使用数でみたところ、母語話者は 69.6% が異なっているのに対し、学習者は 42.9% と少なく、母語話者ほど多彩な複合動詞を使いこなせていないことが推測される。学習者の異なり複合動詞使用数は 9 カ国の母語の異なるデータ間での異なる複合動詞を集計しているため、学習者は全般的に似通った複合動詞ばかりを使っていることが分かる。ところで、陳 (2007) では、話し言葉コーパスにおいて学習者は母語話者の半分程度の使用頻度であったため、学習者は作文のほうがより複合動詞の使用が少ない傾向にある。また、話し言葉コーパスでは、母語話者と学習者は異なり複合動詞使用数がほぼ同程度であった。作文において、日本人はより複合動詞を使用し、学習者は使用頻度も種類も少ないという実態が明らかになった。

### 6.1.2 学習者国別の動詞、複合動詞全体使用の比較

次に、学習者の動詞、複合動詞使用の概要を母語別にまとめたのが表 2 である。国ごとでデータの大きさにばらつきがあり、最も多い韓国 (総文字数：153,458) と最も少ないモンゴル (総文字数：24,961) では 6 倍程の開きが出ている。総文字数に対する動詞使用数は 7～12% 程度となっており、母語話者と同程度であるが、複合動詞使用率は 0.6～2.0% でありいずれも母語話者よりも少ない。

複合動詞における異なり複合動詞の占める割合は国ごとに大きな差がある。韓国 (65.5%)、インド (65.3%)、シンガポール (78.2%) の学

習者は複合動詞の使用と共に異なり複合動詞の使用も多く、タイ（43.1%）の学習者は複合動詞の使用が比較的多いにもかかわらず、同じような言葉ばかりを繰り返し用いている傾向が見られる。最後に、学習者の合計で異なり複合動詞の比率が少なくなっていることから、学習者の母語に関係なく、使用できている複合動詞の種類がある程度同じ言葉であるということが読み取れる。学習者の母語別に頻出上位5項目の前項動詞と後項動詞をまとめた。詳細は割愛するが、よく用いられている複合動詞はどの国も共通しており、国別に使用傾向が見られるような項目は特になかった。

表2 国別における動詞、複合動詞使用の概要

	中国	インド*	カンボジア	韓国	マレーシア	モンゴ*ル	シンガ*ポール	タイ	ウ*ェトナム
W	55,879	63,132	73,240	153,458	98,560	24,961	52,554	86,626	40,455
V (W に対する%)	4,048 (7.2)	6,473 (10.3)	8,602 (11.7)	13,394 (8.7)	7,376 (7.5)	2,531 (10.1)	3,483 (6.6)	6,910 (8.0)	3,383 (8.4)
CV (V に対する%)	64 (1.6)	118 (1.8)	61 (0.7)	142 (1.8)	54 (0.7)	15 (0.6)	55 (1.6)	137 (2.0)	38 (1.1)
異なり CV (CV に対する%)	46 (71.9)	77 (65.3)	23 (37.7)	93 (65.5)	42 (77.8)	10 (66.7)	43 (78.2)	59 (43.1)	30 (78.9)

### 6.1.3 複合動詞使用上位15項目の比較

母語話者の作文と学習者の作文における頻出複合動詞の上位15項目とそれぞれの使用数の合計、複合動詞使用数に対する割合を表3に示す。母語話者の上位15項目の複合動詞の延べ使用数合計は53語で、母語話者複合動詞使用数135の39.3%を占めるのに対し、学習者の上位15項目の延べ使用数合計は295語で、学習者複合動詞使用数686の43.0%を占めている。母語話者、学習者共に上位15項目が全複合動詞使用数の40%程度を占めている。陳（2007）の調査結果とほぼ一致している。このことから、書き言葉も話し言葉と同じように、頻繁に使われる複合動詞グループがあることが確認できた。ただし、書き言葉でも話し言葉でも学習者は母語話者よりも複合動詞の使用が少ないことを忘れてはいけない。上位15項目のうち、「吸い始める」、「吸いこむ」、「出かける」、「落ち着く」の4項目が母語話者と学習者で共通している（表中の下線が引

いた項目、以下同)。話し言葉の調査結果でも、「出かける」と「落ち着く」が母語話者と学習者が共通して多用する項目であった。「吸い始める」、「吸いこむ」は学習者にも母語話者にも共通して上位に入っている原因は「たばこ」がテーマだからである。また、「かけあう」の28語の使用は全てタイ人学習者による「行事」の作文に現れたものである。タイの「ソーラン」という行事で、水をかけあって遊ぶ風習があることが要因である。以上から、複合動詞の使用は、作文のテーマに大きく左右されることが分かる。よって、複合動詞の使用状況をより深く掘り下げるためにはテーマの違いを考慮し、テーマごとの複合動詞使用状況も検討する必要がある。

表4はテーマ別の学習者と母語話者の複合動詞上位5項目とそれぞれの使用数、各グループの複合動詞使用数に対する割合を示す。

表3 全体における複合動詞使用の上位15項目

母語話者作文			学習者作文		
	CV (総数 135)	CV に対する%		CV (総数 686)	CV に対する%
見かける	11	8.2	差し上げる	69	10.1
あり得る	7	5.2	思い出す	41	6.0
<u>吸い始める</u>	5	3.7	かけ合う	28	4.1
投げ捨てる	4	3.0	<u>吸い始める</u>	25	3.6
<u>落ち着く</u>	4	3.0	吸いすぎる	20	2.9
<u>吸いこむ</u>	3	2.2	見つける	20	2.9
取り入れる	3	2.2	話し合う	15	2.2
** <sup>8)</sup> し切る	2	1.5	<u>吸い込む</u>	14	2.0
引っ張る	2	1.5	<u>落ち着く</u>	12	1.7
見わかる	2	1.5	<u>出かける</u>	10	1.5
思いつく	2	1.5	繰り返す	9	1.3
取り除く	2	1.5	引きつける	9	1.3
<u>出かける</u>	2	1.5	吸い続ける	9	1.3
付け加える	2	1.5	**し始める	7	1.0
立ち去る	2	1.5	受け入れる	7	1.0
計	53	39.3	計	295	43.0

表 4 テーマ別複合動詞使用の上位 5 項目

	母語話者作文			学習者作文		
		CV (総数 135)	CV に対する%		CV (総数 686)	CV に対する%
行事	引っ張る	2	1.5	さしあげる	67	9.8
	思いつく	2	1.5	思い出す	35	5.1
	取り入れる	2	1.5	かけ合う	25	3.6
	出かける	2	1.5	見つける	13	1.9
	以下 1 種類	1	0.7	話しあう	10	1.5
	計	9/40	22.5%	計	150 / 451	33.3
たばこ	見かける	10	11.5	<u>吸い始める</u>	25	11.5
	あり得る	7	9.2	吸いすぎる	20	9.2
	<u>吸い始める</u>	5	6.5	<u>吸いこむ</u>	14	6.5
	投げ捨てる	4	4.1	吸い続ける	9	4.1
	<u>吸いこむ</u>	3	3.7	落ち着く	8	3.7
	計	29/95	30.5	計	76/217	36.2

学習者による「たばこ」の作文に、上位 5 項目のうち、「吸い始める」、「吸いこむ」の母語話者と共通している項目以外に「吸いすぎる」、「吸い続ける」も多く使用されている。「落ち着く」以外、全てアスペクトを表す項目である。学習者によるアスペクトの使用が少ない、話し言葉とは異なる調査結果になった。

「行事」に関する上位 5 項目に、両者共通の項目はないが、「さしあげる」に注目したい。話し言葉の結果では、学習者による「さしあげる」など敬語表現の複合動詞が少なかったが、書き言葉は、「またはタバコを吸うところをさしあげるのがいいだと思います。」(モンゴル、学習年数 1～2 年)のような不適切な使用が多々見られ、今後、敬語表現としての複合動詞の指導が必要であることが示唆される。

## 6.2 後項動詞別の比較

学習者の使用状況をより詳しく分析するため、後項、前項動詞別に比較する。表 5 に、後項動詞の使用頻度上位 15 項目それぞれの使用数、及び種類 (ここでは結合する前項動詞の数のこと、各項目の後ろの () 内の数字)、総複合動詞使用数に対する比率をまとめた。

表 5 後項動詞使用の上位 15 項目

母語話者作文			学習者作文		
	CV (総数 135)	CV に対する%		CV (総数 686)	CV に対する%
<u>かける</u> (2)	13	9.6	<u>あげる</u> (9)	81	11.8
<u>こむ</u> (5)	7	5.2	<u>出す</u> (23)	78	11.4
きる(4)	7	5.2	<u>あう</u> (23)	72	10.5
<u>つく</u> (3)	7	5.2	<u>始める</u> (28)	60	8.7
える(1)	7	5.2	<u>つける</u> (6)	31	4.5
<u>始める</u> (2)	6	4.4	<u>すぎる</u> (10)	29	4.2
<u>つける</u> (5)	5	3.7	<u>こむ</u> (11)	27	3.9
<u>すぎる</u> (5)	5	3.7	<u>かける</u> (8)	21	3.1
<u>出す</u> (5)	5	3.7	<u>続ける</u> (13)	21	3.1
<u>あう</u> (4)	4	3.0	かえる(8)	15	2.2
捨てる(1)	4	3.0	<u>つく</u> (4)	14	2.0
取る(4)	4	3.0	あがる(6)	12	1.7
<u>あげる</u> (4)	4	3.0	<u>いれる</u> (4)	11	1.6
<u>入れる</u> (2)	4	3.0	かえず(2)	10	1.5
直す(2)	2	1.5	たてる(6)	8	1.2
計	84	62.2	計	490	71.4

後項動詞上位 15 項目のうち、10 項目は共通している。使用頻度に差はあるが、学習者と母語話者とで使用する後項動詞の大部分は共通している。また、話し言葉の調査と同じく、学習者、母語話者ともに、上位 15 項目は複合動詞使用数の 6 割以上を占めている。このことから、頻繁に用いる後項動詞項目は重点的に指導をすることが効果的であることが分かる。

後項動詞の性質を見ると、学習者による生産力の高い統語的複合動詞、特に「～すぎる」など程度を表す後項動詞、「～始める」、「～続ける」などアスペクトを表す後項動詞の使用が多い。話し言葉の調査では、アスペクトを表す複合動詞は学習者があまり使用していなかった。ただ、学習者の使用する後項動詞には「～始める」と「～始まる」、「～上げる」と「～上がる」などの対のある自動詞と他動詞が混在しており、例文を見てみると「両方の人々が代わり代わり天を向けてとび上げながら」(韓国、学習年数 3 年以上)、「列の人は花よめの家へ歩きはじまる」(タイ、学習年数 2～3 年)、「成人になるとたばこを吸いはじまる」という可能性



があるでしょう。」(マレーシア、学習年数3年以上)、などの誤用がよく見られた。

このような複合動詞の誤用の原因は、学習者が自他動詞の複合動詞の結合法則が分かっていないか、もしくは自他動詞が習得できていないかである。自他動詞の結合ルールに関しては影山(1993)、由本(2005)が詳しい。また中石(2005)は自他動詞の習得研究を行っている。対をなす自他動詞は初級で学ぶものであるにも関わらず、上級まで誤用が続く項目であるという報告があり、今後の自他動詞の複合動詞の習得を深く分析する必要がある。

表6はテーマ別の学習者と母語話者の後項動詞上位5項目とそれぞれの使用数の合計、各グループの複合動詞使用数に対する割合を示す。「行事」において、「～あう」、「～出す」、「～あげる」の3項目が共通し、「たばこ」において、「～始める」、「～こむ」の2項目が共通している。「行事」でも「たばこ」でも学習者の上位5項目合計の割合はその課題に現れた複合動詞の5～6割を占め、母語話者の2.5割より上回っており、学習者は同じ後項動詞を重複して使う傾向が読み取れる。

表6 テーマ別後項動詞使用の上位5項目

	母語話者作文			学習者作文		
		CV(総数 135)	CVに対する%		CV(総数 686)	CVに対する%
行事	かける	3	7.5	<u>あげる</u>	80	17.7
	<u>あう</u>	3	7.5	<u>出す</u>	65	14.4
	つく	2	5.0	<u>あう</u>	64	14.2
	<u>あげる</u>	2	5.0	始める	35	7.8
	<u>出す</u>	2	0.4	つける	27	6.0
	計	12/40	25.4	計	271/451	60.1
たばこ	かける	10	10.5	<u>始める</u>	29	13.4
	<u>こむ</u>	7	7.4	すぎる	26	12.0
	きる	7	7.4	<u>こむ</u>	18	8.3
	つける	5	5.3	だす	18	8.3
	<u>始める</u>	5	5.3	続ける	12	5.5
	計	34/95	25.3	計	103/217	47.5

### 6.3 前項動詞別の比較

前項動詞別の使用状況を表7に示す。後項動詞と同じく、前項動詞の

上位 15 項目のそれぞれの使用数、及び種類（ここでは結合する後項動詞の数のこと）、総複合動詞使用数に対する比率をまとめている。また共通している前項動詞は上位 15 項目中、6 項目があり、話し言葉の調査結果と同じく、「み～」、「とり～」、「思い～」など共通して多く使用されているが、話し言葉と同じく、後項動詞ほど共通性は顕著ではなかった。前項動詞は話題に左右されやすく、「たばこ」と「行事」を課題にしているためか「吸う」、「飾る」が上位に入っている。

表 7 前項動詞使用の上位 15 項目

母語話者作文			学習者作文		
	CV (総数 135)	CV に対する%		CV (総数 686)	CV に対する%
見る (4)	14	10.4	さす(3)	73	10.6
吸う (5)	10	7.4	吸う(8)	72	10.5
ある (2)	8	5.9	思う(6)	46	6.7
とる (5)	7	5.1	かける(1)	27	3.9
飾る (2)	5	3.7	引く(10)	22	3.2
する (3)	5	3.7	とる(12)	21	3.1
おちる(1)	4	3.0	見る(3)	21	3.1
なる (1)	4	3.0	話す(3)	16	2.3
押す (3)	3	2.2	飛ぶ(8)	14	2.0
思う (3)	3	2.2	言う(6)	13	1.9
立つ (2)	3	2.2	受ける(3)	11	1.6
持つ (3)	3	2.2	出る(3)	11	1.6
言う (1)	2	1.5	おちる(1)	10	1.5
切る (2)	2	1.5	歩く(5)	10	1.5
作る (2)	2	1.5	くる(1)	9	1.3
計	75	55.6	計	376	54.8

表 8 はテーマ別の学習者と母語話者の前項動詞上位 5 項目とそれぞれの使用数の合計、各グループの複合動詞使用数に対する割合を示す。「行事」において、「思う」、「見る」の 2 項目、「たばこ」において、「吸う」、「見る」の 2 項目が共通している。「行事」でも「たばこ」でも学習者の上位 5 項目合計の割合はその課題に現れた複合動詞の 4～6 割を占め、母語話者より割合が大きい。このことから、学習者は母語話者より同じ前項動詞を重複して使う傾向が読み取れる。

表 8 テーマ別前項動詞使用の上位 5 項目

	母語話者作文			学習者作文		
		CV(総数 135)	CV に対する%		CV (総数 686)	CV に対する%
行事	思う	3	7.5	さす	70	15.5
	出る	3	7.5	思う	38	8.4
	引く	2	5.0	かける	28	6.2
	見る	2	5.0	引く	23	5.1
	とる	2	0.4	見る	14	3.1
	計	12/40	25.4	計	173/451	38.4
たばこ	見る	13	13.7	吸う	78	35.9
	吸う	11	11.6	とる	17	7.8
	ある	8	8.4	見る	11	5.1
	取る	5	5.3	思う	10	4.6
	投げる	4	4.2	おちる	8	3.7
	計	41/95	43.2	計	124/217	57.1

#### 6.4 学習者学習年数別の比較

最後に、学習者の学習年数別の使用状況を比較してみる。学習年数別の作文数、総文字数、テーマ別の複合動詞使用数、異なり複合動詞使用数、当該グループの総文字数、及び割合、及びそれぞれの合計を表 9 にまとめる。

表 9 学習年数別複合動詞使用の概要

CV (異なり CV) W に対する割合%	たばこ	行事	計
1 年未満 (n=182) w=109, 273	21 (13) 0.019	65 (49) 0.059	86 (65) 0.079
1~2 年 (n=384) W=236, 662	103 (58) 0.044	197 (97) 0.083	300 (145) 0.127
2~3 年 (n=172) W=103, 579	28 (19) 0.027	77 (41) 0.074	105 (60) 0.101
3 年以上 (n=234) W=149, 116	41 (27) 0.027	94 (63) 0.063	135 (86) 0.091
母語話者 (n=66) W=44, 359	95 (61) 0.214	40 (36) 0.090	135 (94) 0.304

注) n : 作文数。学習年数未回答の作文数 87 部 (総文字数 47,049) があり、その部分は除外する。

表 9 の総文字数に占める比率で分かるように、学習者は母語話者と違い、各グループでも「たばこ」より、「行事」における複合動詞使用率が多い。「たばこ」でも「行事」でも、「1 年未満」の学習者による使用率が最も少ない。両テーマともに使用数が一番多いグループは学習年数が「3 年以上」のグループではなく、「1～2 年」のグループである。ただし、各グループ間差は小さく、複合動詞使用率自体は学習年数との相関があるとは言い難い。話し言葉では、複合動詞の学習者による使用頻度は習熟度と相関があり、初級、中級学習者による使用は少なく、上級、超級になるにつれて、使用頻度は増えてくるといえる。今回の調査は、話し言葉の結果と違った。

学習年数による習得の度合いを見るためには、使用頻度だけではなく、使用された複合動詞の正用率、多様性などをグループごとに、例文を詳しく検討しなければならない。これらの課題は今後引き続き検討する。

## 7. 今後の課題

本稿は陳 (2007) に続いて、学習者による作文と母語話者による作文を比較し、学習者の書き言葉における複合動詞の使用傾向を探った。

今後は今回の結果を踏まえて、複合動詞使用状況の調査を深めていく予定である。特に母語別、学習年数別に詳細な検討をする。量的分析を行った上で、質的分析も行いたい。具体的には、作文データから抽出した複合動詞の例文を複数名の母語話者に考察してもらい、誤用のパターンの発見と誤用を生じる原因の追究などを中心に分析する。今回の結果で学習者による敬語表現としての複合動詞の誤用、「自動詞、他動詞」の誤用が目立ったことが分かったのでその原因と対策も視野に入れて質的分析を進めていく。誤用だけではなく、正用、非用について考察し、学習者の使用実態とそれに有効な指導と習得支援に結び付けたい。

---

<sup>1</sup> 姫野 (1975 : 52) では、「留学生の作文などを読んでいると、複合動詞の使用が少ないのに気づく。そのせいか、語理的にどことなく単調で、幼い感じを受けることが多いようだ。」と述べている。

<sup>2</sup> OPIとは最長 30 分という限られた時間内のインタビューで、被験者の口頭能力を最大限発揮させ、妥当で信頼性のある自然な発話を必要最大限採集、録音し、それを

---

ACTFL (全米外国語教育協会) 外国語能力基準に照らし合わせ、被験者の口頭能力を判定する評価法である。

<sup>3</sup> 鎌田修氏と山内博之氏を中心に作成された、OPIを文字化したコーパス。中国語、韓国語、英語を母語とする学習者各 30 名 (OPI判定の初級 5 名、中級 10 名、上級 10 名、超級 5 名)、計 90 名のインタビューが所収されている。

<sup>4</sup> 上村隆一氏が中心となり、OPIの手法で収集された会話コーパスで、母語話者、学習者両方のデータが含まれている。(http://www.env.kitakyu-u.ac.jp/corpus/)

<sup>5</sup> 作文対訳DBには、①日本語学習者による日本語作文、②作文執筆者本人による母語訳(または最も楽に文章を書ける言語への翻訳)、③日本語教師による作文の添削、④作文執筆者・添削者の言語的履歴に関する情報、という 4 種類のを大量に集め、電子化した上で簡便な検索が可能なインデックスをつけたものである。また比較のために、母語話者による作文も収集されている。1999 年度から 2000 年度にかけて作成された。2007 年 3 月、これまでさまざまな形で公開してきた作文データを、web ページに一本化させて公開された。(http://www2.kokken.go.jp/eag/wiki.cgi)

<sup>6</sup> Microsoft Wordの文字カウントツールを用いて、「スペースを含めない」数を採用した。

<sup>7</sup> ただし、カンボジアに、喫煙者が極めて少ないという事情から、「外国からの援助について」(援助)という課題 3 を用意している。

<sup>8</sup> 「\*\*し切る」や「\*\*し始める」の「\*\*」には漢語動詞(「無視し切る」、「勉強し始める」、「食事し始める」など)をまとめて集計した。

## 参考文献

影山太郎 (1993) 『文法と語形成』 ひつじ書房

陳曦 (2007) 「学習者と母語話者における日本語複合動詞使用状況の比較—コーパスによるアプローチ」『日本語科学』 22、pp. 79-99

中石ゆうこ (2005) 「対のある自動詞・他動詞の第二言語習得研究—「つく-つける」、「きまる-きめる」、「かわる-かえる」の使用状況をもとに—」『日本語教育』 124、pp. 23-32

姫野昌子 (1975) 「複合動詞『~つく』と『~つける』」『日本語学校論集』 2、pp. 52-71

由元陽子 (2005) 『複合動詞・派生動詞の意味と統語』 ひつじ書房

(名古屋大学国際開発研究科)